

	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R4・2・15
			No.58

羽生選手が「スケートで世界をめざす」と決めたのが小学校4年生の時でした。放課後は毎日スケートリンクに通い練習し、家に帰るのは夜の9時。勉強も手を抜きたくはなかった羽生選手は、それから勉強をします。睡魔と戦いながらの勉強です。しかし、さすがにスケートに集中して練習した後で、勉強をがんばったり、好きなことを我慢したりするのは、さすがに長続きしないと気づいたそうです。そこで、スケートの後は好きなゲームをしたりリラックスする時間にしたそうです。

そうになると勉強時間はますます限られてきます。そこで羽生選手は、授業前の休み時間を使って勉強を始めたそうです。授業前の休み時間に予習することで授業の理解度を高めておき、練習前や週末の空き時間を使って復習し、分からないところをなくしていったそうです。スケートという自分のやりたいことを継続しながら、短時間で最大限の成果を出せるように工夫していたのです。

また、タイマーを使って勉強や休憩の時間を意識的に区切っていたそうです。そうすることで、メリハリがついて、どちらにも集中できたそうです。



一流選手の生活習慣

羽生選手の勉強の仕方

羽生 結弦 1994年(平成6年)、宮城県仙台市出身のフィギュアスケート選手
 2014年ソチ五輪・2018年平昌五輪2大会
 連続オリンピック金メダリスト

羽生選手は、「スケーターである以前に、一人の人間。常識やスケート以外の知識も身につけておきたい」と考え、大学の通信課程で学びました。将来、自分のスケートの経験を多くの人に伝えていくためには、人としての常識や知識、伝える技術が必要だと考えたからです。

北京オリンピックでも、攻めの姿勢を貫き、果敢に難しい技に挑戦する姿に多くの人が勇気づけられました。自分がやりたいことのスケートと、自分がなすべきことの勉強を両立できるように工夫していた羽生選手、その向上心と理想に近づくために努力を惜しまない姿に強さを感じます。羽生選手は、こうも述べています。「スポーツはとても残酷だと思います。一番努力した者が、必ず一番の結果を出せるものではありません。しかし、努力しなければ、結果は決して残すことはできません」